

■ 全体講評

午後Ⅰ記述式試験では、各問題の選択率が5%以内に収まっており難易度が平準化されていること、午後Ⅱ論述式試験では、問2において、記述式問題でも高頻度で問われているクラウドサービスという論述しやすい題材が出題されていること、を根拠に、学習の成果を適切に測定ができる試験であると評価します。

以下に、午後Ⅰ記述試験講評、午後Ⅱ論述式試験講評を述べます。

■午後Ⅰ記述式試験講評

3問中2問の選択になります。問1は食材を輸入販売している商社の業務改革の監査、問2は個人情報を取り扱う業務の一部を外部委託する場合の監査、問3は自治体向けの業務システムの監査です。

システム監査技術者試験の午後Ⅰ記述式試験では、このように、業種やテーマが広範囲に出題されています。自分の経験や専門知識を活かせるテーマを選んで解答することが大事です。

問題の選択についてですが、一般的には問1、問2を選択する人が多いのですが、今回の試験では均等に問題が選択されています。これはよい傾向です。**本試験でも、問3まで問題の概要をチェックするようにするとよいでしょう。**

次に記述式問題における確認項目を説明します。

(1)重要キーワードを解答に盛り込む

問1では、問題文にある“顧客別”や“金額が一致しない売掛金の一覧”，問2では個人情報保護における重要なキーワード“利用目的”，問3では、問題文の前半にある“定例会”が重要なキーワードとなります。

問1の設問2，問2の設問1，問3の設問4(2)では、これらの重要なキーワードを適切に解答に盛り込んでいない解答が多かったために、正答率が低くなりました。

試験対策セミナーにおいて、キーワードが解答にない理由を受講者にヒアリングすると、「解答欄に書いてしまい、空欄が足りないのでキーワードを書けなかった」という回答をもらうことがあります。**字数不足で重要なキーワードを解答欄に書けない場合、解答を消しゴムで消して書き直して、得点に必要なキーワードを確実に解答に盛り込むようにしましょう。**

(2)設問で問われている内容と、解答の語尾が合っているかを確認する

設問で理由を問われているにもかかわらず対策を書いている解答などが散見されます。理由を問われた場合は、基本的には「～から」という語尾にするとよいで

しょう。

(3)対策などが問われた場合は「体言止め」は避ける

問2の設問4(2)において「なりすましが行われていないことを確認」など、語尾を体言止めをしている解答が散見されます。減点の可能性があるため、しっかりと「確認する」と表現するようにしましょう。

(4)監査手続に、監査手続を適用する対象、監査技法を含めて表現する

監査手続に“閲覧”，“精査”，“突合”，“インタビュー”などの監査技法を盛り込んで監査手続を表現することは重要です。

何を基に確認するのか、明確ではない監査手続が散見される傾向があります。監査手続の解答を作成したら、監査手続を適用する対象を含めて表現しているかを確認するとよいでしょう。**実際に他者に指示をして監査手続を実行できるような表現をすることが重要です。**

■午後Ⅱ論述式試験講評

2問中1問の選択になります。問1は、内部監査の是正処置に関する監査、問2は、パブリッククラウドサービスを導入する場合の監査です。

基本ができていないと午後Ⅱ論述式試験突破は難しいです。午後Ⅱ論述式試験では、次の点を確認してください。

- (1)名詞を問われている、あるいは、箇条書きのタイトル、以外は体言止めを使用しない
- (2)略字を使用しない
- (3)禁則処理を行う
- (4)“である”調に統一する
- (5)丁寧語は使わない
- (6)問題冊子や解答用紙で指定された方法で問題を選択しているかを確認する
- (7)解答冊子から設問イやウの論述開始箇所を確認する
- (8)誤字がないかを見直す

システム監査技術者試験の午後Ⅱ論述式試験では、出題範囲が広いために、ポイントを絞った事前学習が難しいです。したがって、リスク要因、リスク、コントロール、確認すべきポイント(監査要点)、監査手続、監査証拠の考え方をしっかりと習得しておくことが重要です。

基本的な論述の仕方ですが、確認すべきポイントを挙げておきます。

- (1)採点者が採点しやすいように、設問文に沿った章立てをする

(2)採点者が採点しやすいように、設問文で問われているキーワードを使って論述する。

(3)過度に我田引水せずに、趣旨に沿って論述する

■問題ごとの午後 I 記述式試験講評

問1 食材を輸入販売している商社の業務改革の監査

【採点基準】

〔設問1〕

(1)解答例の趣旨に合った解答であれば8点。その他は、基本的に0点。

(2) 解答例の趣旨に合った解答であれば8点。その他は、基本的に0点。

〔設問2〕

“詳細な債権データを管理していない”あるいは“顧客別”のどちらかを必須とし、解答例の趣旨に合った解答であれば9点。その他は、基本的に0点。

〔設問3〕

“債権管理課長が定期的に”及び“金額が一致しない売掛金(の)一覧”を必須とし、解答例の趣旨に合った解答であれば9点。“債権管理課長が定期的に”及び“金額が一致しない売掛金(の)一覧”というキーワードのうち、どちらかがない解答は部分点の4点、その他は、基本的に0点。

〔設問4〕

(1)“債権データの修正”及び“承認”を必須とし、解答例の趣旨に合った解答であれば8点。“債権データの修正”及び“承認”というキーワードのうち、どちらかがない解答は部分点の4点、対策に寄せた解答は部分点4点、その他は、基本的に0点。

(2) “記録が残るようになっていない”旨を指摘すること必須とし、解答例の趣旨に合った解答であれば8点。“電話(口頭)”を指摘しただけの解答は部分点の4点、その他は、基本的に0点。

【講評】

食品を輸入している商社の業務改革に関わるシステム監査の問題です。問題文にあるキーワードやヒントを見逃さず、解答を導くことが重要です。

〔設問1〕

(1)顧客登録に絡めていない解答は、厳しいですが、不正解としました。

(2)受注のチェックに絡めていない解答については、厳しいですが、不正解としました。

〔設問2〕 高い正答率の設問でした。

〔設問3〕“債権管理課長が定期的に”、“金額が一致しない売掛金の一覧”というキーワードのない解答は、趣旨が合っているにもかかわらず不正解としました。

〔設問4〕

(1)ルールが定まっていない旨を指摘する設問です。承認を債権管理課長が行うなど、対策を書いている解答が散見されました。厳しいですが、部分点としました。

(2)理由を問われているにも関わらず、対策を書いている解答が散見されました。“設問で問われている内容と、解答の語尾が合っているかを確認する”ようにしましょう。具体的には、理由が問われているにもかかわらず、“ドキュメントを残す”など対策を書いている解答が散見されました。なお、“職務の分離”や“承認”にかかわる解答については、“修正依頼を電話で行う”という問題文の記述を根拠に、この設問では解答を導いて欲しいことから、厳しいですが、不正解としました。

問2 個人情報を取り扱う業務の一部を外部委託する場合の監査

【採点基準】

〔設問1〕

“利用目的”を必須とし、解答例の趣旨に合った解答であれば10点。その他は、基本的に0点。

〔設問2〕

解答例の趣旨に合った解答であれば10点。その他は、基本的に0点。

〔設問3〕

解答例の趣旨に合った解答であれば10点。“画面を見ない誓約を交わす”など、守秘義務から少し外れた解答は部分点5点、その他は、基本的に0点。

〔設問4〕

(1)解答例の趣旨に合った解答であれば10点。その他は、基本的に0点。

(2)解答例の趣旨に合った解答であれば10点。その他は、基本的に0点。

【講評】

この問題は、個人情報保護法のガイドラインに沿った形で、委託先の監査をどのようにしたらよいかを問うています。

〔設問1〕“利用目的”というキーワードのない解答が散見されました。厳しいですが、趣旨が合っているにもかかわらず“利用目的”というキーワードのない解答は0点としました。

〔設問2〕

表1の項番3に“K社からの追加要求事項の内容を確認する”という記述から、“追加要求事項の内容が反映されていること”という問題文の流れを確認しておきましょう。文書が適切にメンテナンスされているか、という観点で問う設問は高い頻度で出題されます。

〔設問3〕

“画面を見ない旨の誓約を交わす”という解答につい

ては厳しいですが、部分点 5 点としました。守秘義務に寄せた解答を正解としています。

〔設問 4〕

- (1) “ログイン時刻”と“ログオフ時刻”の代わりに“アクセスログ”という表現でも正解としました。
- (2) “就業開始時刻”と“退出時刻”の代わりに“就業時間”という表現でも正解としました。

問3 自治体向けの業務システムの監査

【採点基準】

〔設問 1〕

- (1) 解答例の趣旨に合った解答であれば 5 点。ただし、“適切な監査ができない”旨に寄せていない解答については、部分点 2 点、その他は、基本的に 0 点。
- (2) 解答例の趣旨に合った解答であれば 5 点。ただし、“適切な監査ができない”旨に寄せていない解答については、部分点 2 点、その他は、基本的に 0 点。

〔設問 2〕

解答例の趣旨に合った解答であれば 10 点。その他は、基本的に 0 点。

〔設問 3〕

解答例の趣旨に合った解答であれば 10 点。その他は、基本的に 0 点。

〔設問 4〕

- (1) 解答例の趣旨に合った解答であれば 10 点。趣旨が合っても、不備への対応策に寄せた解答については、部分点 5 点、その他は、基本的に 0 点。
- (2) “定例会”を必須とし、解答例の趣旨に合った解答であれば 10 点。その他は、基本的に 0 点。

【講評】

システム監査の品質を見直すという趣旨で作成された問題です。そのため設問 3 などの解答を書く際に、表現方法を「システム監査の品質の確認」に寄せて表現する必要があります。

〔設問 1〕

- (1) “適切な監査ができない”旨に寄せていない解答については、部分点 2 としました。
- (2) “適切な監査ができない”旨に寄せていない解答については、部分点 2 としました。

〔設問 2〕

(適切性を確認せず) 承認者に回している旨がない解答については、厳しいですが、部分点 5 点としました。

〔設問 3〕この問題は、システム監査の品質を見直すための監査です。したがって、“要件定義書にある SLA にかかわる要件を踏まえて SLA が締結されていることを確認する”や“業務要件と SLA のサービス水準の整合性を確認する”など、通常のシステム監査の観点から書か

れている解答については、厳しいですが、部分点 5 点としています。

〔設問 4〕

- (1) 設問では確認手続の不備について問われています。語尾が“妥当であるかを確認する”など、不備への対応策に寄せた解答については厳しいですが、部分点 5 点としました。“設問で問われている内容と、解答の語尾が合っているかを確認する”ようにしましょう。
- (2) “定例会”というキーワードがない解答は、厳しいですが 0 点としました。記述式問題の採点では、採点の再現性を高めて公平性を確保するために、問題文に書かれているキーワードを基に採点をする傾向があります。“定例会”など問題文にあるキーワードは正確かつ確実に解答に盛り込むようにしましょう。

■合格に向けての学習

〔午後 I 記述式試験〕

公開模擬試験の結果をレビューしましょう。それが終わったら、本試験問題などを演習して、得点できなかった設問について、解答解説と自分が導いた解答を比較して、ギャップが生じた原因を分析する方法は、得点力を上げる方法の一つです。ぜひ、実践してみてください。

〔午後 II 論述式試験〕

公開模擬試験のレビューをしたら、弱点を自己診断し対策を講じましょう。

監査手続を書けない受験者が散見されることが、試験センタの試験講評の内容から分かります。論述式試験のために、監査手続の対象、監査技法、監査証拠を含む監査手続を書けるようにしておきましょう。

本番のシステム監査技術者試験の午後 II 論述式試験では、見たことがない問題が出題されると考えてください。出題範囲が広いからです。そのため、システム監査における基本的な、リスク要因、リスク、コントロール、確認すべきポイント（監査要点）、監査手続に関する知識を整理しておきましょう。知識を使え、応用できるようにしておくことが重要と考えます。

本試験で見たことがない問題に直面しても、焦らないことです。受験会場のほぼ全員がそのように感じているからです。“しっかりと専門知識を習得しているから大偉丈夫”と考え、問題文の趣旨をヒントにして論述内容を自分の頭から絞り出すようにしましょう。

■本試験での注意

- (1) 記述式問題では 3 問とも概要を確認

本試験では、問 3 まで余裕をもって問題の概要をチェックするようにしましょう。

(2)集中力の適切な配分

本試験は、開始から終了まで長時間行われます。公開模擬試験で体験した体力の消耗度や集中力の低下などを参考にして、試験開始から午後Ⅱ論述式試験が終了するまで、集中力を上手に配分して、試験の途中で力尽きないようにしましょう。

(3)他人事ではない問題選択の記入漏れ

問題の選択忘れや選択ミスは他人ごとではないと認識するようにして、本試験では解答提出時に最終確認を怠らないようにしてください。

合格に向けて、がんばりましょう。

－以上－

itec